

世界で活躍する日本の環境NGO・NPO



アジアを中心に世界各地で活動する日本の環境NGO・NPO。地球環境基金はこれまでに、国内外のNGO・NPOが海外で展開する1,285件のプロジェクトに対し、総額約66億円の支援を行ってきました。本号では、こうした活動の中から最新の6事例を紹介します。また、総括インタビューとして、NGOや国際協力といった言葉もない時代にいち早く団体を設立し、長年にわたり海外での農村開発や環境保全活動を展開している公益財団法人オイスカの中野悦子会長にお話を伺いました。



1960年代、派遣した篤農家による日本式の稲作指導

オイスカの年代別活動テーマ

1960年代

FOOD FIRST

インドやフィリピンへ篤農家を派遣し、農業改良と食糧増産に寄与。

1970年代

GRASS ROOTS

アジア各地に研修センターを設け、農業実習を中心に人材育成活動を展開。

1980年代

LOVE GREEN

森林減少による洪水や干ばつを受け、植林プロジェクトに本格的に着手。

1990年代

CHILDREN'S FOREST PROGRAM

子どもたちが取り組む森づくり活動「子供の森」計画を開始。

2000年代～

ふるさとづくり

人と自然が共生する「ふるさと」づくりのための、人材育成、農村開発、環境保全、普及啓発活動。

植林活動は、最初の10年は日本からのボランティアと現地の村人が一緒に植えるといったスタイルでした。しかし当時、村人に木を育てるという意識は低く、植林の日当さえもらえれば、木が枯れてもお構いなし。というのも、貧困という差し迫った課題があり、20年後30年後に恩恵を被る活動に本気になれなかったからです。

そこで、大規模緑化とは別に、少し遠回りでも環境意識を持った人を育てようとしたのが「子供の森」計画です。子どもが主役になって取り組むと、親や地域の人にも感化される。子どもが「野生動物に木の芽が食べられちゃう」と言うのと、親は柵を作りますからね。



1991年にスタートした「子供の森」計画は、現在、世界35の国と地域・4,692校で展開。応援したい国を選ぶことができ、支援者には毎年、子どもたちから手書きのカードが届く。



同じ目線に立つ。それが、オイスカ流

ひとことではない！
それがオイスカの原点

オイスカが農業開発団として初めて海外に人を派遣したのは、1966年。当時、インドを大干ばつが襲い、何千人という餓死者が出ていました。「アジアの同胞を救いたい」という創立者・中野與之助の呼び掛けに応え、篤農家17名が農業改良食糧増産のために現地に入りました。前会長（中野良子氏）が「お腹がすいたのとひもじいのとは違う」とよく言いますが、彼らは戦中戦後のひもじさを知っている世代で、インドの飢餓をひとこととは思えなかったのでしょう。この「困っている人を助けたい」という思いは今もオイスカのDNAとして受け継がれており、国際協力や開発支援を出発点とする現

国に持ち帰るのは
「頑張る心」

「子供の森」計画はもう25年になるので、昔この活動に参加した子どもが先生になり、赴任先で広げてくれるところまできました。また最近では、ゴミの分別を始める学校や、学校菜園にハーブを植え、それを村人に配るなど、現在のオイスカの活動テーマである「ふるさとづくり」へと発展しているケースもあります。

先ほど、最初のころは村人が植林活動に本気になってくれなかったと話しましたが、当事者がどれだけ主体的に取り組むか、それがプロジェクトの成否の鍵を握っています。主役はあくまで現地の人であり、オイスカは側面支援です。

そんな活動の担い手を育てるために設けたのが研修センターで、ここに現地の青年を招いて農業技術を教えています。いろいろな国から来た研修生たちは寝食を共にする中で、自分が国を背負っていくのだと自覚するようになります。それから、帰国前に彼らが口をそろえて言うのが、「日本で学んだのは頑張る心」ということ。日本人は指導者であってもトイレ掃除もするし、とにかく真面目に頑張る。そんな姿を見て、自分はまだまだだったと。日本を第二のふ

長期的な支援のために
顔の見える工夫を

森づくりや村づくりは、すぐに成果が出るわけではありません。私たちがもかつて期間を見誤って苦労したことがあります。10年計画といっても、実際には20年30年と関わらざるを得ない……。そのあたりをどう支援者の皆さんに「ご理解いただくか。ただ、マングローブ植林に100年コミットすると宣言してくださる企業もありますし、少しずつ理解も進んでいるのかなとは感じています。

個人では現場で頑張っている日本人の姿に胸を打たれたと寄付をしてくださる方もいるので、いかに顔の見える活動にしていけるか、広報も含め、工夫しているところです。



総括
インタビュー

E t s u k o N a k a n o

公益財団法人オイスカ 会長
中野悦子さん

1950年福岡県生まれ。1969年福岡県立八女高等学校卒業。1971年中野学園天文地学専門学校卒業後オイスカ・インターナショナル総裁秘書。1990～2011年財団法人国際文化交友会理事。1996年10月にオイスカ・インターナショナル副総裁に就任。また、2015年6月より公益財団法人オイスカ会長、および公益財団法人国際文化交友会顧問に就任し現在に至る。